- 77 -

別紙4
事後調査の結果
 調査項目 その他（工事中の粉じん）
 予測した事項 環境保全のための措置、工事用車両の運行状況

 1 調査地域
別紙 1「騒音」の図 1-1（P10）に示した工事区域及びその周辺区域とした。

 2 調査手法
 （1）調査事項
調査事項は、表 4-1 に示すとおりである。

表 4-1 調査事項
 調査事項
対象とした事項 建設機械の稼働、粉じん飛散防止策の状況
工事の施工状況 ・建設機械の種類、台数、配置
・工事用車両台数及び運行経路
環境保全のための
措置の実施状況
工事の施工における土砂の掘削、積込み及び運搬等の作業では、砂塵
が飛散しないように必要に応じて飛散防止シートの装着、運搬用車両
及び工事区域周辺の清掃、散水を行う。

 （2）調査時点
館地区の館第一トンネル工事（ヤード造成、立坑構築・高圧噴射、立坑構築・TBH 杭打、
シールド掘進）、館地区改良工事（構造物撤去、道路土工、道路舗装工）及び館ヶ丘地区の館
高架橋工事（杭打ち、躯体工）における工事最盛期の代表的な 1 日とした。

- 78 -

 （3）調査期間
調査期間等は、別紙 1「騒音」と同時期の表 4-2 に示すとおりである。

表 4-2 環境保全のための措置の調査期間等
地区 工 事 工種 作業内容 調査期間 調査時間
館 館第一トンネル
（起点側） 立坑工 立坑構築・高圧噴射
(地盤改良土留工) 平成 29 年 11 月 17 日（金） 7:00～19:00
館 館第一トンネル
（起点側） 立坑工 立坑構築・TBH 杭打 平成 30 年 3 月 30 日（金） 7:00～19:00
館 館第一トンネル
（終点側） 準備工 ヤード造成
（親杭打設工・造成工） 平成 29 年 8 月 2 日（水） 7:00～19:00
館 館第一トンネル
（終点側） 掘進工 シールド掘進 平成 30 年 7 月 25 日（水） 7:00～19:00
館 館地区改良工事 準備工 構造物撤去 令和元年 9 月 30 日（水） 7:00～18:00
館 館地区改良工事 土工 道路土工 令和元年 11 月 15 日（水） 7:00～18:00
館 館地区改良工事 舗装工 道路舗装工 令和 2 年 3 月 17 日（火） 7:00～18:00
館ヶ丘 館高架橋 基礎杭工 杭打ち 平成 29 年 11 月 17 日（金） 7:00～19:00
館ヶ丘 館高架橋 下部工 躯体工（型枠・コンクリ
ート打設） 平成 30 年 1 月 10 日（水） 7:00～19:00

- 79 -

 （4）調査地点
別紙 1「騒音」の図 1-1（P10）、図 1-2(P11～13)及び図 1-3(P14～22)に示した工事区域及
びその周辺区域とした。

 （5）調査方法
調査方法は、表 4-3 に示すとおりである。

表 4-3 調査方法
調査項目
調査内容
建設機械の稼働及び、粉じん飛散防止の状況、環境保全のための
措置
対象とした事項
工事の施工状況 現地調査及び関連資料による。
環境保全のための
措置の実施状況

 3 調査結果
 （1）環境保全のための措置の実施状況
環境保全のための措置の実施状況を表 4-5 に示す。
なお、その他（工事中の粉じん）に対する苦情等はなかった。

表 4-5 「環境保全のための措置」の実施状況
環境影響評価書 実施状況
 工事の施工における土砂の掘削、積込み及び
運搬等の作業では、砂塵が飛散しないように必
要に応じて飛散防止シートの装着、運搬用車両
及び工事区域周辺の清掃、散水等を行う。
 施工エリアから砂塵が飛散しないよ
う、運搬車両やヤード内への散水、路面
の清掃を行ったほか、飛散防止シート、
防じんシート、防じんネットや敷鉄板を
設置した。（写真 4-1～写真 4-9）

【館第一トンネル（終点側）】

写真 4-1 散水状況及び飛散防止シー
トの設置状況
写真 4-2 タイヤ洗浄機

- 80 -

写真 4-3 場内散水 1 写真 4-4 場内散水 2

写真 4-5 場内散水（散水車） 写真 4-6 路面清掃

【館地区改良工事】

写真 4-7 防じんシート 写真 4-8 防じんネット

【館高架橋】

写真 4-9 敷鉄板

- 81 -

 （2）建設機械の稼働状況
別紙 1「騒音」の表 1-5（P24～32）に示すとおりである。

 （3） 工事用車両の運行状況
環境影響評価書では、工事用車両はピーク日の交通量で 150～220 台程度と予測されていたが、
今回の工事用車両の運行状況は、館第一トンネル（終点側）の掘進工（シールド掘進）で 236
台/日、館地区改良工事の準備工（構造物撤去）で 18 台/日、土工（道路土工）で 20 台/日、
舗装工（道路舗装工）で 2 台/日であった。なお、館第一トンネル（終点側）の掘進工（シー
ルド掘進）における工事用車両のうち、191 台は隣接する施工ヤードへの土砂運搬のみの移動
であり、事後調査計画書の評価対象となる経路は通行していなかった。